

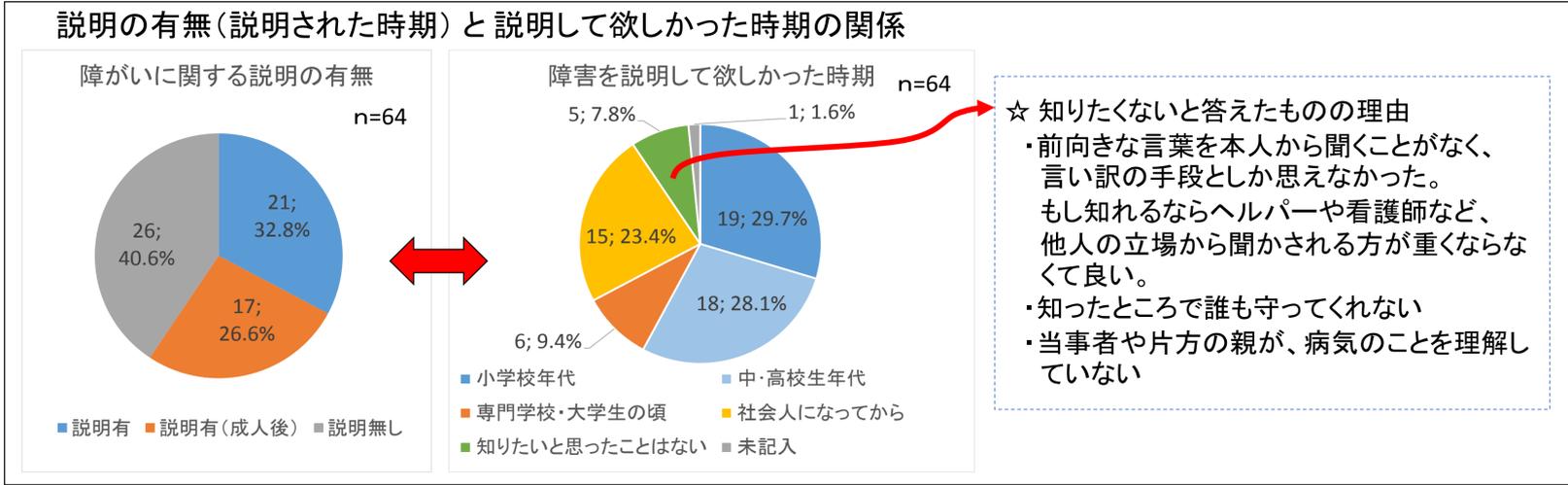
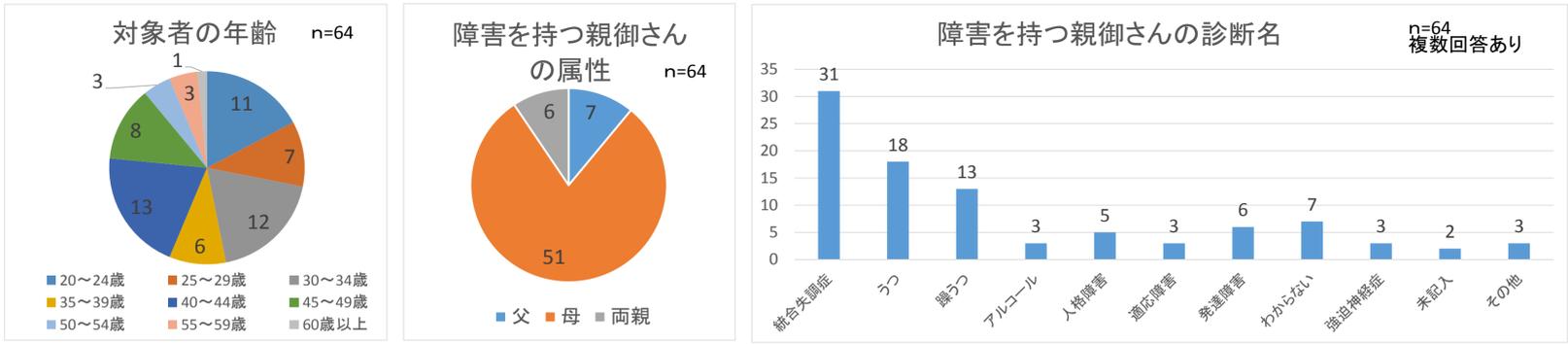
Webアンケートによる『子どもが求める親の障がいに関する説明』を把握する調査

鈴鹿医療科学大学看護学部: 土田幸子 三重大学医学部附属病院: 鈴木大
 日本福祉大学看護学部: 長江美代子 滋賀県立大学人間看護学部: 甘佐京子
 名古屋第一赤十字病院: 服部希恵 総合心療センターひなが: 宮越裕治

【研究の背景と目的】 精神障がいの親と暮らす子どもは、親の障がいについて説明を受けていないことが多く、親の身に何が起っているのか、どうすれば良いのかわからない困惑状況の中で誰にも相談できずに生活していることが多い。このように日本では、子どもに親の障がいや子ども自身の生活について語られることは少ないが、海外ではこうした子どもを対象に親の障がいや自分自身について学ぶ心理教育プログラムが開発されており、日本でも同様のプログラムが望まれる。本研究は、日本版の心理教育プログラムの開発を目指し、「**子**」の立場の者が求める「**親の病気や障がいに関する説明**」について、説明する時期や内容を把握し、検討することを目的とした。

【研究方法】 精神障がいの親と暮らした経験を持つ成人した「子」の立場の者を対象に、研究者らが運営する「子」を支援する会(親&子どものサポートを考える会)のホームページで研究協力を求め、Webで解答する質問紙調査を実施した。得られた回答を度数分布による単純集計、自由記述への記載をKJ法によって分析し、親の障がいや自身の生活について説明する時期と内容を検討した。

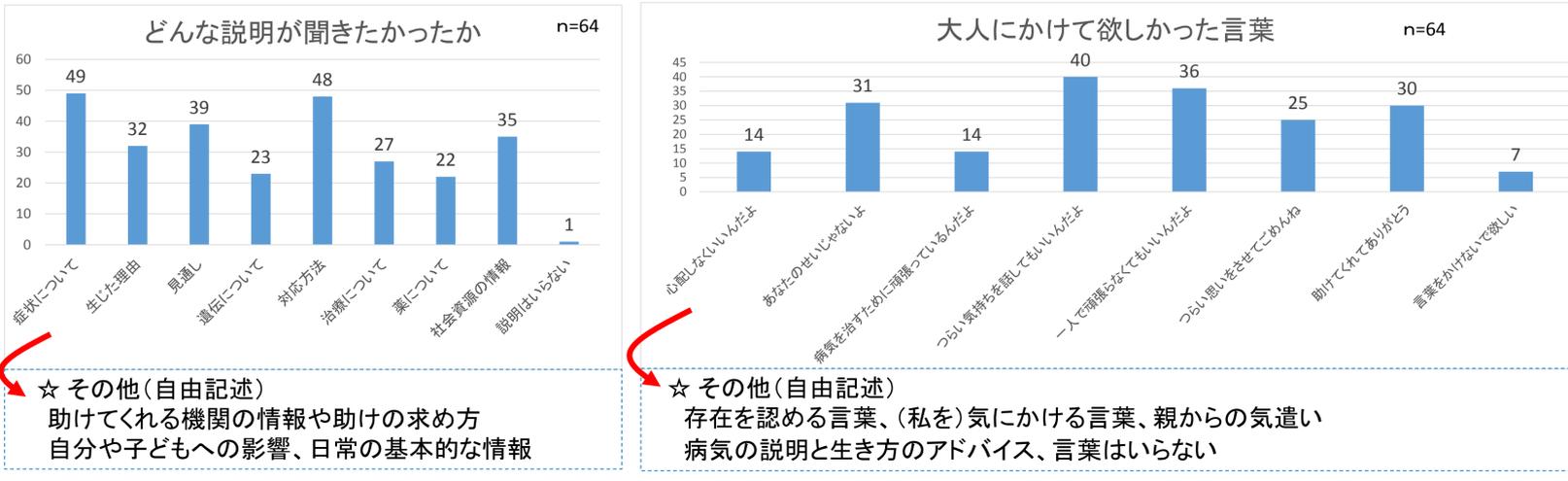
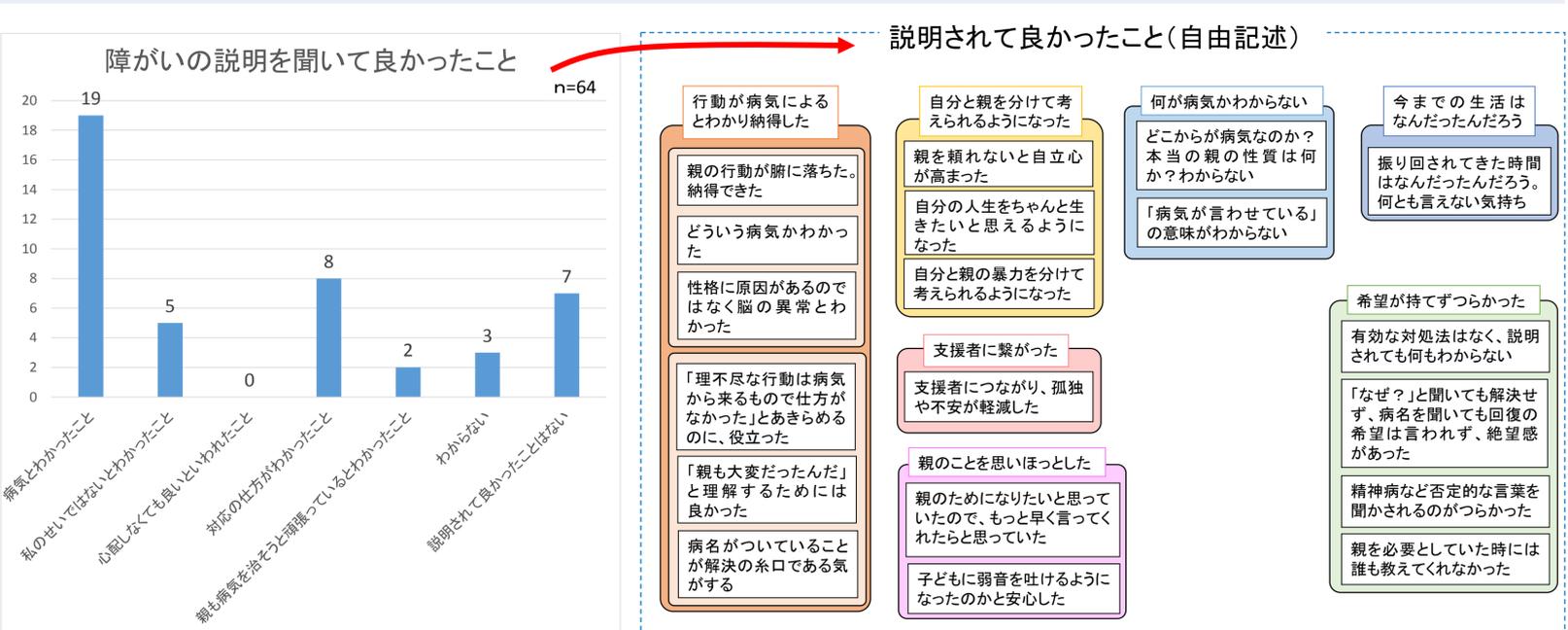
【結果】 対象に該当しない者・最後まで解答していない者を省いた64名の回答を分析対象とした。



違和感を感じた年齢と障がいについて聞いた時期の関係

誕生～小学校低学年			小学校高学年			中学生年代			高校生年代			19歳以上		
聞いた時期	人数	割合	聞いた時期	人数	割合	聞いた時期	人数	割合	聞いた時期	人数	割合	聞いた時期	人数	割合
～小学校年代	6	17.6	小学校年代	3	27.3									
中高生年代	9	26.5	中高生年代	3	27.3	中高生年代	5	62.5	高校生年代	1	33.3			
20代前半	7	20.6	20代前半	1	9.1	20代前半	2	25	20代前半	1	33.3	20代前半	2	25
20代後半～	3	8.8	20代後半～	3	27.3	20代後半～	0	0	20代後半～	0	0	20代後半～	3	37.5
聞いていない	9	26.5	聞いていない	1	9.1	聞いていない	1	12.5	聞いていない	1	33.3	聞いていない	3	37.5

* 縦の枠: 違和感を感じた年齢 横のライン: 障がいの説明もしくは診断名を聞いた時期



【考察】 親の障がいに関する説明は、**子どもの認知発達を考慮して行われることが重要である**。伝える内容については単に疾患を説明するだけでなく、子どもを取り巻く環境にも目を向け、緊急時の対応、子どもを守ってくれる機関やSOSの求め方など、**困りごとに対する具体的な対処法や子どもにとって見通しが持てるような情報、伝え方が求められる**。また、**親(症状)と自分を分けて考え、自分を価値ある存在と感じられるような日常的な関わりが必要である**と考えられた。**これらのポイントは、日常的に精神障がいの親と暮らす子どもとの関わりにおいて重要であると考えられた**。今後、海外のプログラムを参考に、心理教育プログラムの内容・実施方法を検討していくことが課題である。

【倫理的配慮】 本研究は、鈴鹿医療科学大学・臨床研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。アンケートは無記名で、IPアドレスを特定できない設定で実施し、研究協力を依頼する文書の中に、研究目的・方法・対象が被り得る利益と不利益・結果の取り扱いについて記載し、アンケートへの回答を持って同意を得たと判断した。演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません。本研究は、JSPS科研費90362342の助成を受けたものです。